



受信メール: 川辺川ダムに対する意見

川辺川ダム建設の前に少なくとも以下の疑問点に関して明快な科学的検証がなされる必要があります。

- ① ダム計画当時の貯留関数法などのパラメータは、球磨川流域の森林が荒廃状態にある時期に策定されたもので、当時から40年経過した今日の球磨川流域の森林の状況で、正しい実測に基づいてパラメータを設定し直せば単位図法であれ、貯留関数法であれまたタンクモデル法であれ、予測値は数十パーセントは低くなるのがすでに幾つもの他の流域の調査で示されています。このことによりダムは必要としない治水が可能であると考えられること。
- ② 元東海大の宇野木教授が、ダム建設は八代海域の漁業に悪影響を及ぼすという現地漁民の実感ともマッチする指摘に対して、国は明快な回答をしていないこと。
- ③ 濁水対策としての選択取水、清水バイパスの効果に関しては、宮崎県の一の瀬ダムなどの既存例が示すように、川辺川の清流を現状のまま守るには極めて不完全な対策であると考えられること。



受信メール:「川辺川ダム事業に関する県民の意見の募集」係り 御中

熊本県川辺川ダム総合対策課 様

以下の通り、川辺川ダムに関する意見を述べさせていただきます。

=====

まず申し上げたいのは、生命・財産を守る為に本当にダムが必要であるのなら、水害体験者こそ建設を望むはずなのに、望むどころか会まで作ってこぞって建設に反対しているということです。

私は、以前は「水が出れば必ずつかる」と言われていた通称「横西町」と呼ばれていた地域で幼少期を過ごしました。そういう地域で育った子供にとって、市房ダムの建設以降は、怖いのは大雨ではなく放流のサイレンの音でした。サイレンが鳴ると、今でも怖くて怯えがくるほどです。

他の体験者の皆さんも同じ事を訴えられていますが、市房ダムができるまでは、雨が降れば家族が川を見に行き、どの辺まで水が上がったかで、あとどのくらい時間が経ったら自宅まで水が来るという予想がついたため、荷物を2階に上げる時間、また手伝いを頼む親戚に召集をかける時間は十分ありました。

ところが、市房ダム建設後はまったく予想がつかなくなり、被害は増大しました。川の傍の住民にとって「ダムは怖いもの」だったのです。それでも住民は、「電気が必要」「ダムがあれば命が救えた」などという(当時)建設省の建設理由の説明を信じ「そんなら我慢せんば」と、なかなか反対の声をあげることができませんでした。ところが、その理由は正当だったでしょうか。まったくのこじ付けだった事は、知事はじめ県職員の皆様もすでに存じのはずで

その後河川の改修等が行われ、今では震えるほどの大雨がふっても人吉市街地に水が溢れることはなくなりましたが、河川改修やかさ上げが行われていない地域では、今でも毎年大変な思いをされています。そういった地域の対策はもちろん、川幅の拡幅、森林の保全など、今できる治水対策をに



早急にやっていただく事を多くの住民が望んでいます。

経験を元に住民がダムの害を訴えても、国や行政からは科学的根拠を求められますが、そもそも公共事業とは、地域の住民が望んこそ進められるべきものはずです。

100年前後で土砂が溜まり寿命を迎えるダムに、予想以上の雨が降って満杯になった場合放流するしかないダムに、地震が来て崩壊すれば巨大な危険物になるダムに、大切な税金をつぎ込むよりも、住民が望む治水方法によって流域の生命財産を守るべきではないでしょうか。

=====

川辺川ダム建設に対する意見書

人吉で過去に水害がおきており、人吉・八代の人達の人命を守るために、必要だと思う。

川辺川ダム建設に対する意見書

環境保護の為に、河川改修という案があるが、河床掘削等により生物に悪影響を及ぼし兼ねないのでは無いでしょうか。

川辺川ダム建設に対する意見書

毎年、梅雨・台風により国道219が冠水し、その度に復旧工事をされているが、道路の嵩上げや、護岸改修だけでは限界があるのではないのでしょうか、地域の人達の為にも安心して住めるようにダムの建設が必要だと思います。

川辺川ダム建設に対する意見書

利水問題で騒がれていますが、一番に考えることは、下流に住む
住民の命を守ることだと考えます。1日も早いダムの完成を願います。

川辺川ダム建設に対する意見書

ダムを作ることによりこれまでかかっていた道路復旧等が無くなれば、長い目で見て税金の無駄使いを避けられるのではないのでしょうか。

川辺川ダム建設に対する意見書

地球温暖化に伴い各地で水害が発生している。ダムが出来れば、今後そのような災害をダムを調整することで調整できるのではないのでしょうか。

川辺川ダム建設に対する意見書

代替地に移転されて、水没予定地を捨てた方の事も考えると、早期にダムをつくる必要があるのではないのでしょうか。

川辺川ダムに関する意見

私は、多良木町に住んでいますので 川辺川の洪水等には、直接の関係は有りませんが、祖父母に聞きますと、市房ダムができる前は、大雨のたびに洪水が発生していたと聞きます。

近年の気象は、地球温暖化の影響でしょうか 集中豪雨や台風等異常な気象が続き、ニュース等でも見ますように、災害がいつ起きてもおかしくない状況に有ります。

色々な方法も有るのですが、やはりダムが一番良い方法ではと思います 地球の環境は、守らなくてははいけませんが 人命や財産を守るためにダムが必要だと思います。

川辺川ダム of 早期建設をお願いします。

川辺川ダムは、多目的ダムとして発電・農業用利水・治水40年数年前に計画されたものです。この計画は、国・県・市町村・が地域住民の生命・財産を守る事と、球磨川北部大地の農業振興を図る事を目的に計画されたものです。ダム建設・農業利水事業の整備に相当の投資がされている事から、次のような点から「川辺川ダム」の早期完成を蒲島知事をお願いします。

- 1、環境面からも水力発電が他の発電よりも最もクリーンなものではないかと思っています。鹿児島県川内市に原子力発電所がありますが、もし事故があったら偏西風に乗って人吉球磨地方は大変な事になると思います。火力発電は、地球温暖化が進行するもので考えるべきだと思います。

今回の荒瀬ダム撤去、撤回は賛成です。もっと活用すべきです。

- 2、ダムよる治水対策をしないと、流域住民及び消防団・行政の方は毎年の集中豪雨時の苦勞は大変です。特に高齢者・一人暮らしの世帯の避難など、特に高齢者の体育館避難は考えべき、国・県・市町村は、政権・トップが変わろうとも国民・県民・市町村民の生命と財産を守ることが最大の責務です。

自然環境・自然の鳥獣・河川の魚類などは大切に守らなければならないが、人の命を最優先に守ってほしい。

- 3、山江村は、昭和19年7月の大水害で、山田川・万江川の河川・流域の水田が全てが流失・土砂に埋まり、戦時、戦後の食料事情の悪い時、村民、農家は大変な苦勞をしました。昭和30年まで、その復旧にかかりました。村の中心を流れる山田川には、当時の桜井三郎県知事の配慮により、砂防ダムが30数ヶ所建設されました。当時は戦後の建設資材も余りなく、建地石を使ったダムでしたが、その後、この山田川は大きな災害もなく河川もきれいな水が流れ、「ほたる」が飛び交うような川になりました。環境に配慮したダムであればダムで河川が汚れる事は無いと思います。

- 4、山江村は、農家1戸当りの耕地面積が60aで兼業農家が殆どです

。川辺川利水事業で、原野・山林を農地造成して、農家が安心して農業経営ができる村づくりを進めてきました。農地の造成は終わり利水を心待ちしていた矢先に利水と切り離され、本当に安価な水の確保ができるのか心配です。是非ダムの水を多目的に利用できるように、ダムを建設してください。村民の願いです。他に産業がなく農業で生きるしかありません。

現在、水を余り必要としない焼酎用の甘藷を栽培しています。

5、河川の川床の掘削は、災害の基になります。数年前万江川の工事で河川の川床の石の掘削で学校の通学道路、民家が大災害に遭い、復旧後も数回災害に見舞われました。その後、数百mの河川の水が流れなくなり、現在は、やまめや他の魚も住めなくなり。川水は地下に浸透してしまいました。

最近の異常気象による災害、一昨日の神戸・金沢の集中豪雨による災害を見ると **絶対ダムは必要**、

* 山江村の戦後の砂防ダム・川辺川利水国営事業の畑地造成・万江川の川床掘削地を是非現地を見てください。

今までに **膨大な国費・県費・市町村費**が投入されています。無駄にならないように**建設促進**をお願いします。五木村の離村された方に申し訳ない。

熊本県知事 蒲島郁夫様



受信メール:「川辺川ダム事業に関する県民の意見の募集」について

今回自分の意見を聞いてもらいたくメールをさせていただきます。

早速私個人として川辺川ダム建設の賛否を問われると、私は建設に賛成です。近年地球温暖化の影響で雨量は年々増えており計測開始以来最高量を更新し、また降り方は局地的集中豪雨が多発しているように思います。これは日本だけでなくとどまらず、世界各地で毎日のように大雨による被害がテレビに映し出されています。こういった災害は事前に十分な対応が必要だと思います。河川の氾濫で水没したら家具家電はもちろん、その家での思い出すべてを失う事になります。すでに球磨村の方達は幾度となく家が浸水するという被害に遭っていらっしゃいます。被害に大小をつけるわけではありませんが、こういった災害が人吉市内などで起こり甚大な被害が出てからでは遅いのです。私はこの川辺川問題の住民説明会に何度か参加させていただきました。確かに自然そのままにこの清流「川辺川」を残せるのがベストとは思いますが、ダムを作らなければ根本的な災害対策は不可能だと思いました。川底の掘削や堤防のかさ上げなどダム建設に反対されている方の意見がありました。ただ、それだけでは十分な対応とは思えず非現実的と思われる。反対派の方達はご存知なのでしょうか、大雨が降り大水がでたら地元建設業の方達などが命を危険にさらしながら排水のためのポンプ設置を行っている事を。

それより建設されたダムを生かし観光事業に力をいれた方が良くないでしょうか。良くも悪くも全国的な問題になり知名度はありますので、ダム周辺に資料館など建設し観光客を呼び込む。その後安定した水量の確保ができ年間を通して観光客にアピールできるようになる「球磨川くだり」「ラフティング」などを楽しんでもらい、またあゆ料理や球磨焼酎など人吉球磨名産のお食事をしていただくために宿泊してもらおう。いかがでしょうか。人吉球磨は非常に厳しい状況にあり観光客を多く呼び込み、あらたに雇用が生まれるなど全産業が活性化して欲しいです。



受信メール: 川辺川ダムに関する意見書

川辺川ダムに関する意見

川辺川ダムには、最初から反対だったわけではありません。球磨川における様々な環境調査に係わって、やはり余りにも犠牲にするものが多すぎるという結論に達し、反対しています。それでも、治水に役立つならまだ、理解もできます。ダムで水害が防げないのは、市房ダムが証明しています。市房ダムが出来てから、建設前と水害の頻度は減少したでしょうか。昨今の異常気象には、計画降雨も意味をなさず、河川行政の流れを見ても、今求められているのは、溢れることを前提とした治水方策です。例え、溢れても、死者を出さず、被害を最小限にすることが、想定外の洪水にも対応できる方策だと考えます。

また、川辺川ダムや荒瀬ダムが計画された40～50年前は、誰もが環境に与える被害を想像できなかったのは、仕方ありません。しかし、荒瀬ダムが出来てすぐ、それは現れました。当時700軒以上あった、八代漁協のノリ漁業には、すぐ甚大な被害が現れ、その後の努力もむなしく、数年で100軒以下に減少し、今では3軒です。諫早湾の締め切りによる2001年のノリ落ちは、50年前に荒瀬ダム建設により、球磨川河口におこったノリ被害そのものです。荒瀬ダム建設の教訓が、他県で活かされなかったのは、残念ですが、同じ球磨川で同じ過ちは、繰り返してはいけません。環境立県くまもとの知事として、環境と治水対策のどちらも両立する方法を、県外に示していただきたいと思います。流域住民と共に、リスクの共有を含め、ダムに頼らない、治水のあり方を考えることこそが、今後の分権の時代に求められているのだと思います。どうぞ、これまで既存のダムが何をもたらしたか、再検証していただければ、自ずから答えは出てくるものだと思います。15年以上もこの問題を見てきたものとして、将来に禍根を残す決断はしてはならないと申し上げます。

以上



受信メール: 川辺川ダム事業に関する県民の意見

私は、球磨郡錦町在住の25才男性です。川辺川ダムに対しては皆さん賛否両論あるかと思いますが、私は賛成です。というのも、川辺川はとても綺麗な川で球磨郡が全国に誇れる川だと思いますが、雨期等には大雨が降りとても恐ろしい川に成るからです。

洪水時には下流に住んでる方に対して避難勧告が出てとても不安になります。

今年も梅雨時期の大雨で人吉市等下流に住む方に対して避難勧告が出ていましたし、幸い私が住んでる場所は川から離れているので大丈夫でしたが、避難された方、水防対策で出勤された方の事を思うと一刻も早く川辺川ダム事業を進めてもらい、それと同時に下流地域の河川・砂防整備事業等の推進してもらいたいです。

町で歩道が無い道路で子供が交通事故にあったり、治山事業が進められていない山間地域で土砂崩れが発生し家屋が倒壊したり、洪水時の家屋の浸水や人的被害など…例えとしては悪いかもしれませんが、洪水等の災害から生命財産を守る為には、災害が起きてからでは遅いと思います。

災害が起きて後々後悔するよりは、一刻も早くダムによる治水事業を進めてほしいと思います。



受信メール: 川辺川ダム事業に関する意見

私は農家です。長年水を待っています。
難しいことは解りませんが、ダムから水を引いたほうが良いという事だけは解ります。
ダムを早く作って水をください。



受信メール:

私には、推進・反対の立場の友人がいます。双方の話を聞いているとなかなか判断はつきません。しかし、友人は別として、反対派の中に政治的な色を持つ人達がいて、何かしら危うさを感じます。何でも反対。何でも良いから屁理屈を付けて反対する。その所を差し引いて考えれば、やはり住民の生命・財産を守るには、行政の使命だと思います。消去法としてですが、現状ではダムを造るしか他に方法は無いのかなと思うようになりました。



受信メール: 川辺川ダム事業に関する意見

私は会社員です。これまで、川辺川ダムには関心が無く、金が掛るのであれば作らない方が良いと思ってました。しかし、市街地に住む友達と話をしていたら、毎年水害の危険にさらされる状況は大変な事だと思ようになりました。ダムがベストとは思いますが、他に良い方法が無い現状で友人の安全を考えるとダムを建設するしか無いと思います。

川辺川ダム事業に関する意見

球磨川は、昭和38年、昭和39年、昭和40年に未曾有の大災害が発生し、多くの人命と財産を失っています。

大水害を完全になくすことはできませんが、治水事業により、仮に起きたとしても大きな被害とならないようにすることはできます。たとえば、大水害時に土石流及び流木等を一度ダムに貯めて、水だけを少しずつ下流へ流すことで安定的な水の利用を可能にします。

何年に一回起きるかどうかわからない大水害のために貴重な人命や財産を守るためには、仮に百年に一回というようなケースにも対処できるように日頃から万全の備えをしておかなければなりません。

国及び県におかれましては、川辺川ダム建設を促進と同時に自然環境の保全にも万全の体制でより良い川づくりに務めてほしいものです。

川辺川ダム事業に関する意見

私達の泉町は、川辺川の最上流部に位置しその流域は、標高1,000m以上の山が連続する急峻な山岳地帯で、谷は鋭いV字谷を形成しています。

過去の災害による出水により、流域の随所に崩壊が相次ぎ土砂の流出によって膨大な被害を被ったが砂防事業として逐次、砂防工事を建設していただき年々荒廃流域が整備され、地域住民非常に喜んでいきます。

しかしながら近年、森林の荒廃(鹿の被害)また、森林の放棄地等が進み、山肌及び河川の様相が年々変化し災害を受けやすい状況にありまして、土砂災害を受ける恐れのある溪流も数多く残されておりあります。

そうゆうことで国、県として、関係地域住民の生命財産を守るため災害防止に万全を期すため、治水事業の促進に務めていただくことが地域住民の民生安定となり、川辺川ダム建設に大きな期待をしているところです。

川辺川ダムについて

まずはじめに、私は川辺川ダム建設には『賛成』です。

今、公共事業と言えば『川辺川ダム建設』が上位にくるのではないのでしょうか？
今般、無駄な公共事業は中止せよ！とか公共事業削減という言葉が飛び交っていますが国民の生命財産を守るためには必要不可欠ではないのでしょうか？先日の兵庫県の都賀川の災害のように局地的な豪雨によって増水した結果、あのような惨事が起きました。

今回の豪雨は最近問題になっている地球温暖化による異常気象が影響したのではないのでしょうか。今後、異常気象により予想を超える豪雨等があるのではないかと心配です。

国土交通省が発表している球磨川水系の基本高水流量は7,000 t/秒とありますが、川辺川、球磨川流域の森林の保水力も低下していますし、今から森林整備を行うとしても長期の年月を要すると思われます。また地球温暖化による異常気象が懸念されます。これらの事から基本高水流量も再検討すべきではないのでしょうか？

やはり今すべきことは川辺川、球磨川流域の住民の生命財産を守るため、また災害を未然に防止するために早期川辺川ダムの建設を行うべきだと思います。